

労働について

1. 労働と文化命令

クリスチャンと労働

- ◆ 「兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって命じます。怠惰な歩みをして、私たちから受け継いだ教えに従わない兄弟は、みな避けなさい。どのように私たちを見習うべきか、あなたがた自身が知っているのです。あなたがたの間で、私たちは怠惰に暮らすことはなく、人からただでもらったパンを食べることもしませんでした。むしろ、あなたがたのだれにも負担をかけないように、夜昼、労し苦しみながら働きました。私たちに権利がなかったからではなく、あなたがたが私たちを見習うように、身をもって模範を示すためでした。あなたがたのところにいたとき、働きたくない者は食べるな、と私たちは命じました。ところが、あなたがたの中には、怠惰な歩みをしている人たち、何も仕事をせずにおせっかいばかり焼いている人たちがいると聞いています。そのような人たちに、主イエス・キリストによって命じ、勧めます。落ち着いて仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。兄弟たち、あなたがたは、たゆまず良い働きをしなさい。もし、この手紙に書いた私たちのことばに従わない者がいれば、そのような人には注意を払い、交際しないようにしなさい。その人が恥じ入るようになるためです。しかし、敵とは見なさないで、兄弟として諭しなさい。」（テサロニケ人への手紙 第二 3章 6～15 節）

労働倫理 人間は_____として造られた

- ◆ 「あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。」（イザヤ書 40 章 28 節）
- ◆ 「イエスは彼らに答えられた。『わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。』」（ヨハネの福音書 5 章 17 節）
- ◆ 「人は自分の仕事に出て行き夕暮れまでその働きにつきます。」（詩篇 104 篇 23 節）
- ◆ 「奴隷たちよ、すべてのことについて地上の主人に従いなさい。人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕え方ではなく、主を恐れつつ、真心から従いなさい。何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。」（コロサイ人への手紙 3 章 22～23 節）

仕事は_____？

- ◆ 「神は仰せられた。『さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。』神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物

を支配せよ。』」（創世記 1章 26～28節）

- ◆ 「神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。」（創世記 2章 15節）
- ◆ 「また、人に言われた。『あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。』」（創世記 3章 17～19節）
- ◆ 「被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。」（ローマ人への手紙 8章 19～22節）

大宣教命令と善行命令と_____命令

- ◆ 「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

文化形成の営み全般：労働、家庭形成、学校教育、政治、科学全般、芸術、地域活動をあがなうこと。

文化命令：一般恩寵、

社会的善行命令：一般

大宣教命令：特別恩寵、靈的、伝道的

2. 「労使関係」

二つの「従う」

ヒュポタッソー

ヒュポ「下に」 タッソー「_____」

ヒュパクーオー

ヒュパ「下に」 クーオー「_____」

「奴隷たちよ、すべてのことについて地上の主人に従いなさい」の「従う」はどっち？

3. やるべきことをしていくだけ

- ◆ あなたがたのだれかのところに、畑を耕すか羊を飼うしもべがいて、そのしもべが野から帰って来たら、『さあ、こちらに来て、食事をしなさい』と言うのでしょうか。むしろ、『私の夕食の用意をし、私が食べたり飲んだりする間、帯を締めて給仕しなさい。おまえはその後で食べたり飲んだりしなさい』と言うのではないのでしょうか。しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するのでしょうか。同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行ったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』と言いなさい。』（ルカの福音書 17 章 7～10 節）

神の国の求人広告は「しもべ」だけ

- ◆ 「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」（マタイの福音書 25 章 21 節）
- ◆ 「あなたがたに言いますが、多くの人が東からも西からも来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと一緒に食卓に着きます。」（マタイの福音書 8 章 11 節）

4. 「多く働かなければならない時の 7 つ」

- ◆ 「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。」（コリント第一 15 章 10 節）
- 1) 安息を_____であると、きちんと受け止める。
 - 2) 心とからだは壊してはいけない_____ものと理解する。
 - 3) きちんと_____。
 - 4) 労働は悪や呪いではなく、_____であると聖書から受け止める。
 - 5) _____のために働いているかを思い出す。
 - 6) どんな仕事も_____につながると思い出す。
 - 7) 労働について、奉仕について、神様に_____。

5. 「誇り高きしもべ」

- ◆ 「あなたに一ミリオン行くように強いる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。」（マタイの福音書 5 章 41 節）
- ◆ 「それぞれ自分が召されたときの状態にとどまっていなさい。あなたが奴隷の状態で召されたのなら、そのことを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、その機会を用いたらよいでしょう。主にあって召された奴隷は、主に属する自由人であり、

同じように自由人も、召された者はキリストに属する奴隷だからです。」(コリント人への手紙 第一 7章 20～23節)

* 執事のプライド (動画)

6. 負の感情を管理する

- ◆ 「そういうわけで、私はこう願っています。男たちは怒ったり言い争ったりせずに、どこでも、きよい手を上げて祈りなさい。」 (1テモテ 2:8)

よいクリスチャン＝女性的？
いわゆる男性らしさ

認められたい人へ

- ◆ 「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」(マタイ 3章 17節)

怒りに振り回されやすい人

- ・ 自分と対話する
- ・ 相手の人格ではなく行動を評価する
- ・ 自分が何様かを覚え、敵を愛し、祝福し、手を挙げて祈る

将来を見据えて

- ・ クッションワード
- ・ 謝る力

自分にも怒らないで

クリスチャンは、神様と私の、縦の一对一だけで生きていくではありません。横に広がる、人々と社会の中で生きていきます。私たちは「あなたの神を愛せよ」だけでなく、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」とも命じられているからです。でも、人と生きるのは難しい、そう思える日が私たちにはあります。聖書から知恵をいただいて、これからもクリスチャンとしてしっかりと生きていきましょう。